

事務事業名		介護従事者確保事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登録事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登録事業				
政策体系	政策名	0 2 安心が確保されたまちづくり		事業期間		予算科目				
	施策名	1 2 高齢者支援の充実				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	0 3 福祉サービスの充実				01	03	01	03	73
根拠法令		岩手県介護従事者確保事業費補助金交付要綱		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		事務事業区分				
所属		生活福祉部長寿社会課		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 28 年度～)					A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A~D以外)	
部課名		金野 高之		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度		※全体計画欄の総投入量を記入				
課長名		高野 高之		電話 26-2943						
係名		高齢者福祉係		内線 27-3111(内線439)						
担当者		佐藤かおり								

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
地域住民や高校生等に対して、「介護」や「介護の仕事」について理解を深めてもらうために、講座や職場体験を実施する。 具体的な事業内容は、 ①介護の仕事理解促進事業 ・実践介護講座及び介護体験セミナーの開催:介護職員養成機関等に委託して実施する。 ・委託機関からは、参加者からとったアンケートをまとめ、実施の成果を報告してもらう。 ・委託料の支払い。 ②介護の職場体験事業:市内の介護事業所において、5日間程度介護の仕事を経験する。 ・体験希望者を募集した後、受入施設と日程や内容等を調整し、体験につなげる。 ・体験者からはアンケートをとる。 ・受け入れ施設には謝礼を、参加者には交通費を支払う。		総投入量(千円)	
		事業費	
		財源内訳	
		国庫支出金	
		都道府県支出金	
		地方債	
		その他	
		一般財源	
		事業費計(A)	
		0	
		人件費	
		正規職員従事人数	
		延べ業務時間	
		人件費計(B)	
		0	
		トータルコスト(A)+(B)	
		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
①介護の仕事理解促進事業 実践介護講座:3日間(1コース)21人受講、介護体験セミナー1日(30人受講) ②介護の職場体験事業:5人(社会人2、高校生5人)が3~5日間職場体験した。		ア 講座受講者数	
今年度計画(今年度の計画している主な活動)		イ 職場体験参加者	
前年度と同様の内容で実施する予定 ※昨年度は、県からの補助金の補助率は10/10の補助率であったが、今年度以降は1/2となる予定		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民 気仙管内の高校生 高齢者		名称	
		単位	
		カ 高齢者人口	
		キ	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
市民に、「介護」や「介護の仕事」に対する理解を深めてもらい、介護の職に就く人が増える。		名称	
		単位	
		サ 事業前後のアンケートで、「介護に対する印象が良い方向に変わった」と回答した割合	
		%	
		シ 事業後のアンケートで、「今後、介護関係の職に就く意向がある」「進路の選択肢の一つとしたい」と回答した割合	
		%	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
介護保険サービスが充実し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。			

(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
		単位							
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円		671	523	600	700	800
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円			523	600	700	800
	事業費計(A)		千円	0	671	1,046	1,200	1,400	1,600
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間		100	100	120	140	160
		人件費計(B)	千円	0	400	400	480	560	640
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	1,071	1,446	1,680	1,960
⑤活動指標		ア	人	51	60	70	80	90	
		イ	人	5	10	15	20	25	
		ウ							
⑥対象指標		カ	人	13,268	13,383	13,498	13,613	13,728	
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	%	91.0	100	100	100	100	
		シ	%	21.5	30.0	40.0	50.0	60.0	
		ス							

事務事業ID	1700	事務事業名	介護従事者確保事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	<p>少子高齢化及び人口減少が進行する中、団塊の世代が75歳以上になる2025年には、全国で約38万人、岩手県では約5,000人介護職が不足すると推計されているなど、当市においても、施設整備が計画どおり進まない、介護事業所の縮小・休廃止等を余儀なくされるなど介護従事者の不足は、深刻な状況である。それらの課題を解決するための一つの方策として、岩手県の補助事業である「地域医療介護総合確保基金を活用した平成28年度事業」に実施を提案したことから。</p>
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	<p>県では、医療・介護の総合的な確保に向けた事業を展開していくために、平成27年度に、医療介護総合確保法第6条の規定に基づき、「地域医療介護総合確保基金」を設置し、第4条の規定により作成した岩手県計画で定める事業のうち介護従事者の確保に関する事業について、市町村等の実施主体が事業を実施する場合に要する経費に対し、補助金を交付している。</p>
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の介護に対するマイナスイメージを変えるために効果がある事業なので、今後も継続してほしい。 ・子どもたちの職業観を育むために、小学校、中学校や高校等と協力して、職業体験ができる機会をもっと設けてほしい。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 介護従事者を確保することは、高齢者福祉及び介護サービスの充実につながり、高齢者をはじめ市民が安心して生活することができる。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】	介護従事者の確保は、各事業所の責任によるところではあるが、職業を選択する時期への教育や意識の醸成などに関しては、行政が果たすべき責任は大きい。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】	市民に限らず、高校生については気仙管内の高校に通う高校生を対象としたことは、教育の一環として、また、介護の仕事が職業選択の一つとなるのが狙いであり、対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】	事業を拡大することにより、参加者が増え、介護の仕事に就く人が増える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】	参加者は少ないものの、職場体験後に就職するなど直接的な成果が出ており周囲からの今後への期待も大きく、事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。他機関が実施している事業で類似の事業はあるが、時期、内容が十分なものではなく、市民にとってはより多くの機会があった方がよい。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	県の補助金を財源としているが、必要最小限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	1年目は正職員1名が最小限の業務時間で従事したが、委託内容等について見直しするなどし業務時間の削減について検討する。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】	管内の高校に直接出向いて参加者を募集するほか、市広報、FMねまらいん、新聞等で広く周知し、参加者を募集している。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) → 3 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 地域包括ケアシステムの構築のために、介護従事者の確保は重要な課題の一つである。介護従事者確保の方法がいくつか挙げられる中で、当該事業を実施することにより、すぐに大きな効果が期待できるものではないが、参加した人の意識に何らかの変革をもたらすことは確実であるため、より多くの人が参加できるように継続して実施していく。より多くの人が参加するためには、事業の規模を拡大する必要があるため、事業費を増加することが必要となる。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			●																				
	維持			×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	少子高齢化が進行し、今後ますます介護を必要とする高齢者が増加していくことから、介護人材の確保は重要な課題であることから、事業を拡大し、広く介護の仕事への理解の普及に努めていく必要がある。